

(別添2)

No.	10
策定年月	令和4年4月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆産地生産性向上計画
村山市楯岡産地
(作成主体:村山市地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

村山市は、全耕地面積に対する水田面積は8割を超えており、水稻を中心とした水田農業が基幹となっている。主食用米の需要量が減少している中、水田農業経営を安定させるには、将来を見据え、非主食用米や麦・大豆などの土地利用型作物、高収益な作物等への転換を図っていく必要がある。大豆の生産拡大に当たっては、担い手への集積が進んでいる状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。現在、村山市においては、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに、関係者の連携を強化し、地域農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

県の奨励品種である「里のほほえみ」を中心に約170tが全農山形を通して、主に豆腐加工用として販売されている。近年、天候不順等(豪雨災害など)により作柄が不安定のため、収量・品質の向上が重要である。

「里のほほえみ」は晩生の品種の為、天候の安定しない11月以降の刈取りとなっている。11月は雨が続き、晴天が続かない為、刈取りが遅れたり、最悪雪が降ってしまえば、刈取り不能となる。また無理に刈れば品質の低下をもたらす。いかに適時に刈り取れるか、その為には圃場の排水をどう改善するかが課題でとなっている。

早生品種の「シュウリュウ」については、需要が減少傾向にあり、他品種への切り替えを検討しているところである。

(2) 生産における現状と課題

大豆の作付面積及び団地化率は年々微増で推移している。単収及び生産量については年々増加傾向にあるが、令和2年度については豪雨災害があり、単収・生産量共に前年を大幅に下回った。

適時、早期刈取りの為に無理をしてコンバインを稼働させ、その為にコンバインの消耗が激しく、修理費が多大にかかっている状況である。もう少しゆとりのあるコンバイン稼働が必要である。また、長雨が続き圃場の排水が悪くなれば、大豆の収量は落ち、品質も悪くなるため、圃場の排水対策が必要とされる。そのために、畝立てや培土を行う機械を新たに導入する必要がある。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		〇年産	〇年産	〇年産(現状)	〇年産	〇年産	〇年産(現状)	〇年産	〇年産	〇年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)
大豆	里のほほえみ	42.66	42.61	42.68	214	134	256	91.35	56.97	109.35
	シュウリュウ	34.52	34.79	37.02	140	71	172	48.24	24.54	63.63
	秘伝	0.92	0.93	1.99	121	90	173	1.11	0.84	3.45
作物計		78.10	78.33	81.69	180	105	216	140.70	82.35	176.43

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	○年産		○年産		○年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	里のほほえみ	34.61	81.1%	34.70	81.4%	34.77	81.5%	
	シュウリュウ	27.18	78.7%	27.33	78.6%	29.16	78.8%	
	秘伝	0.72	78.3%	0.72	77.4%	1.61	80.9%	
作物計		62.51	80.0%	62.75	80.1%	65.54	80.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

団地化の基準については、大豆を作付けする際、4.5ha以上を連坦してしている団地である。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。